

令和5年度 学校自己評価シート (山口学院 霞ヶ関高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	自由の意味を理解しながら、自ら行動し心身ともに成長できる教育環境を提供する。
----------------	--

本年度の重点目標	1. 授業や学校行事の工夫と改善に努め、生徒が生き生きと取り組めるように心掛ける。(授業・行事の工夫と改善) 2. 挨拶や礼儀をはじめとする基本的な生活習慣の育成に努める。(生活習慣の改善と定着) 3. 進路に対する考えを深めさせ、希望進路実現に向けた積極的な行動を促す。(進路指導の充実) 4. 校内環境を整える。環境が人間の成長に重要な事を理解させながら、物事を広く深い視野で洞察できる人格の育成に努める。(校内環境の整備)
----------	---

番号	評価項目	年度当初			最終評価 (3月)			学校関係者評価
		現状	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	
1	授業・行事の工夫と改善	新課程のカリキュラムが導入され2年目となり、より多くの授業で単元ごとの工夫や観点別評価の方法を研究実践する必要性に迫られている。その様な中で、生徒を中心としたより充実した授業と行事を作り続けて行けるよう、教科を超えた教師の学び合いと連携を深めていきたい。	各教科を学ぶ中で、他の知識や教養へと興味関心が広がっていく事が大切と考える。そのような教育を出来る為にも、教師は専門分野以外の事を学んだり芸術に触れる機会を増やすなど自己の教養をより深める必要がある。	本校で行われる授業や行事は、他の分野への興味・関心をも呼び起こす工夫がされているか等について、授業アンケートや学校アンケート等を使い検証する。	本校で行われている授業を全体的に捉えて評価を求めた所、生徒・保護者共に8割近い人から「分かりやすい」という回答を得られた。しかし授業を通じて他の分野への興味・関心を引き起こす工夫がなされているかの質問では生徒の半数以上が「どちらとも言えない」や否定的な回答を寄せた。	3	授業の「分かりやすさ」から更に歩を進め「教科・科目を超えた学びの広がり」に学びの重点を移して行きたい。本校の授業で学んだ事や感じたことが、将来の自己形成に役だったという声が卒業生から多く寄せられる学校になるため、不断の取り組みで授業の質を高めていく。	生徒達から「授業が分かりやすい」との声が多く寄せられている事に安心すると共に、先生方の日頃のご努力やご苦勞を感じております。ただ、次年度の課題となった「科目を超えた学びの広がりがある授業」が様々な科目がそれぞれの形で実施出来たなら、生徒にとって登校することがより一層待ち遠しい学校になると思いますので期待しております。
2	生活習慣の改善と定着	昨年度の学校アンケートでは8割以上の生徒から高い評価を得た本校の生活指導であるが、残り2割の生徒に対しての関わり方について、教師の自省を促したい。そのうえで生徒に寄り添った丁寧な指導をし、生徒の生活習慣の改善および安定・充実が見られるようにしたい。	校則の極めて少ない学校でこの課題を達成させるには、個々の生徒が良き社会人・成人へと成長する事が重要となる。ゆえに生徒に対しそのような教育をする教師がまず良き成人・良き社会人の見本とならねばならない。教師のコーチングやカウンセリングの力を向上させると共に、倫理観や哲学的素養の充実を図りたい。	教師の言動に大人としての安心感や信頼感を感じる事が出来るか。教師の言動に説得力を感じるか。教師は個々の生徒に寄り添った教育をおこなっているかなどに関して、授業アンケートや学校アンケート等を使い検証する。	教師の言動に大人としての安心感や信頼感を感じる事が出来るかは73%。教師の言動に説得力を感じるかは77%。教師は個々の生徒に寄り添った教育をおこなっているかでも77%の生徒がそう思うとアンケートで回答している(保護者からはいずれも8割越えの回答)。反対に各質問に「そう思わない」と回答したものは、「あまりそう思わない」を含めても10%未満と低く、昨年度より改善が見られた。	4	生徒自身に対する質問でも、生活習慣が以前よりも改善したと実感している者が「とても思う」32%、「やや思う」が31%と、合計で6割を超えていた。同じ質問は保護者からも約85%と高い評価を得た。多くの生徒に生活習慣の改善が見られたのは、教師に対する信頼感に因る生徒・保護者・学校との連携が良好だった点も大きいと考えており、この流れを次年度も継続させて行きたい。	いつ訪問しても生徒たちが穏やかに学校生活を送っている様子が感じられます。教師・生徒・保護者の三人四脚の協力体制は、通信制高校こそが必要だと感じます。ですので、お互いがお互いを信頼する(信頼される)という気持ちをこれからも持ち続けることを希望します。職員室の会話が廊下に居る者に聞こえてしまうとの声も漏れ聞いておりますので、ご注意ください。
3	進路指導の充実	進路に対する意識に個人差が大きい。この課題の対策は、進路指導部だけではなく、個々の教師が各家庭と連携しながら生徒に寄り添い意識変容を図って行くしか無いと考える。「進路を考えることは、生き方を考えること」ということを生徒・教師間で再度共有していきたい。家庭学習の大切さをスタディサプリの活用方法も含め説き続けていきたい。	HR活動だけではなく、高校生活のあらゆる場面で自らの進路に向き合う環境を家庭や地域と学校とが連携し提供出来たらと考える。そのためにはまず教師が社会の現状や将来について学びを深めて行くなくてはならない。より広く・より深く学んだ教師から生徒に投げかける言葉が生徒の社会や進路に対する意識を変え成長させて行くという良い流れになって欲しい。	日常教師から発せられる話は、進路活動や社会で生きていく上での示唆に富んでいるか。授業アンケートや学校アンケートを使い検証する。	進路指導部が主催するガイダンスや校外型体験学習会などの機会が増え、生徒の進路に対する意識が年々高まっている。しかしその一方でHRや授業、更には家庭学習といった日々の学習環境の中での、進路に対する意識改革を促すことに成功しているかは疑問であり、改善の余地が残る。上手い運用がなされていないと生徒・保護者の凡そ半数が指摘しているスタディサプリの利用法を含め、次年度は改めたい。	3	個々の生徒が自らの将来を思い描き進路活動に真摯に向き合うためには、授業やHR活動その他の場面でチームとして他の生徒や教師から刺激を受け連携して行くことが大切である。スタディサプリアICTの運用をより充実させることによって、その機会を増やしていきたい。	校内に張り出されている今年の卒業生の進路実績を拝見させて頂きましたが、大学の合格者数が大きく伸びている事に驚きました。どこの高校でも先輩の頑張りが後輩に良い影響を与えると聞いています。カリキュラムの消化も大切ですが、授業等で先生方が先輩たちの頑張りや具体的取り組みを紹介する機会を増やして頂けたなら良い刺激になると思います。特別コース1年生でのスタディサプリの効果的な利用を、生徒にも学校にも望みます。
4	校内環境の整備	「知の背伸びをしよう」を掲げる図書室を中心に、知・徳・体ともに背伸びをすることの大切さを説く工夫を校内の環境整備と共に努めたい。不断の教育活動が生徒と学び舎とが共に育つ一番大切な事であることを、生徒・保護者・教師に実感してもらいたい。	全ての学問の源である哲学について触れる機会をもっと増やしたい。敬遠されがちな哲学であるが、自分とは何者か・この世界とはいかなるものかを考えることが哲学的思考の土台であることを、学内の生活で会得させたい。これにも教師の学びが一番の鍵となる。	教師が学びを広め・深めているか。それを教育活動に活かしているか。より良い大人として健やかに成長する生徒となるように、校内環境を整備・工夫されているか。授業アンケートや学校アンケート等を使い検証する。	8割以上の生徒と保護者が、本校は落ち着いた心地よい環境の学校であると評価している。PTAをはじめとする多くの人の応援で図書室の蔵書とその内容も充実してきている。授業を初め校内の様々な取り組みが、生徒の88.8%(保護者の86.6%)から「本校へ入学して良かった」との好評価に繋がった。	5	次年度も今年度の流れを踏襲しつつ、より良いものへと育てていきたい。さらには、校内の清掃の徹底にもより注意を払っていきたい。	「知の背伸びをしよう」という図書室の取り組みが形として現れている蔵書と掲示物だと感じております。昔から「環境が人をつくる」と言われています。授業やホームルーム等様々な場面でも「知の背伸び」を楽しみながら行える環境の中で、生徒達が健やかに成長して行ける通信制高校づくりを、これからも楽しみにさせて頂きます。